



2022年5月31日

各 位

東京都千代田区神田司町二丁目 12 番地 1
会 社 名 アース製薬株式会社
代 表 者 代表取締役社長 川端克宜
(コード番号：4985 東証プライム市場)
上席執行役員
問合せ先 グループ経営統括本部 三塚 剛
本部長
(TEL. 03 - 5207 - 7458)

重要課題（マテリアリティ）の特定及び目標（非財務 KPI）設定に関するお知らせ

当社グループは、持続的な企業価値の向上と持続可能な社会の実現に向けてサステナビリティ基本方針に基づき、重要課題（マテリアリティ）を特定し、目標（非財務 KPI）を設定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

今後は、非財務 KPI を継続的にモニタリングするとともに、更なる情報開示を行い、持続可能な事業の実現に向けた取り組みをより一層推進してまいります。

記

1. サステナビリティ基本方針

アース製薬は、「生命（いのち）と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」という経営理念のもとで、ステークホルダーの皆様と協働して、サステナビリティを巡る課題に取り組み、持続的な企業価値の向上とサステナブルな社会の構築に貢献します。

2. 特定した重要課題（マテリアリティ）および設定した目標（非財務 KPI）

事業およびステークホルダーに大きな影響を与えるサステナビリティ重要課題として、5 つの重要課題（マテリアリティ）と各マテリアリティの目標（非財務 KPI）を設定いたしました。

詳細は次ページを参照ください。

(参考) アース製薬のマテリアリティ

<https://corp.earth.jp/jp/csr/outline/vision/pdf/sustainability-materiality.pdf>

以上

マテリアリティ（重要課題）	説明	2030年目標	KPI	SDGs
気候変動への対応	世界的に最も深刻な環境問題である気候変動の緩和とそれへの適応は、中長期的に当社の事業拡大に影響を及ぼす可能性があります。また、気候変動による平均気温の上昇、降水パターンの変化をはじめとした異常気象の激甚化などが、当社事業のバリューチェーン全般に影響を与える可能性があります。こうした気候変動への対応は、中長期的な企業価値に係わる経営課題であると認識しています。	<ul style="list-style-type: none"> ●CO₂排出量を削減します。 ●電力の再生可能エネルギー化を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●CO₂排出量削減： 2020年比で（Scope 1, 2） ・14%削減（2023年） ・28%削減（2026年） ・46%削減（2030年） ●再生可能エネルギー化： ・工場の再エネ化 [再エネ率60%]（2023年） ・研究所の再エネ化 [再エネ率90%]（2026年） ・オフィス*の再エネ化 [再エネ率95%]（2030年） *テナントオフィスを除く 	
地球環境問題への配慮	持続可能な循環型社会形成の観点から、世界規模での環境汚染および資源不足が問題となっています。当社にとって、バリューチェーン全体に係わる環境問題に配慮することは、当社事業の持続可能性に直結する課題です。資源の有効活用と廃棄物削減に向けた当社の取組みは、原料調達から製品設計・製造、使用、廃棄にいたる各段階での環境負荷低減による事業リスクの軽減のみならず、当社ブランドおよび企業価値の保全・向上に貢献するものであると認識しています。	<ul style="list-style-type: none"> ●モノづくり（研究開発から生産）にかかわる水の使用効率を向上させます。 ●循環型社会を目指し、資源を有効に活用します。 ●アースECO基準を定め、環境に配慮した製品の拡大を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●水の使用効率の向上： 2020年比で ・3%向上（2023年） ・6%向上（2026年） ・10%向上（2030年） ●工場・研究所からの産業廃棄物等のゼロエミッション： ・処理委託先の状況調査・見直し（2023年） ・工場と研究所のゼロエミッション（2026年） ・工場と研究所のゼロエミッションの維持（2030年） ●アースECO基準概要： ⇒別表（アースECO基準）参照 	
持続可能な調達の推進	「生命（いのち）と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」という経営理念に基づき、持続可能な調達を推進します。全てのお取引先様とのパートナーシップを構築し、公正・公平で倫理的な関係を保ちながら人権・安全衛生・環境に配慮した調達を推進することが、当社の企業価値創造に繋がるとともに社会全体の持続可能な発展に貢献すると認識しています。	<ul style="list-style-type: none"> ●環境などに配慮した包装材料の調達を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●森林認証紙の使用率： ・使用比率を10%以上（2023年） ・使用比率を30%以上（2026年） ・使用比率を70%以上（2030年） 	
安心して快適な暮らしに貢献する製品・サービスの提供	アース製薬のものづくりにとって、お客様目線に立った高品質で安心・安全な製品・サービスを提供し続けることが最も重要な社会的責任です。当社は、この社会的責任を確実に果たしていくことが、企業価値を保全・向上させるための絶対条件であり、当社の企業価値を形成する礎であると認識しています。	<ul style="list-style-type: none"> ●お客様の満足と信頼を損ねる品質重大事故をゼロにするため、自社工場、製造委託先工場の定期品質監査実施率を向上させます。 ●関連法令を遵守し、違反につながる重大事故をゼロにするため、教育訓練年間計画の実施率を向上させます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●定期品質監査実施率： 100%を維持（2023年、2026年、2030年） ●教育訓練の実施率： 100%を維持（2023年、2026年、2030年） 	
多様な人財の活躍を支える職場の実現	アースバリュー「人がすべて」の価値観に基づき、多様な人財の活躍を支える職場の実現を目指します。従業員の健康・安全に配慮した職場環境を整備し、人権を尊重し多様性を確保した公正で適切な処遇により、従業員一人ひとりが成長できる働きがいのある職場を実現することが、当社の長期的な価値創造に繋がると認識しています。	<ul style="list-style-type: none"> ●年次有給休暇の取得を促進します。 ●女性活躍推進のため、女性管理職相当に占める女性の割合を上昇させます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●有給休暇取得率： 70%以上を維持（2023年、2026年、2030年） ●女性管理職比率： ・10%以上（2023年） ・18%以上（2026年） ・30%以上（2030年） 	

アース製薬のマテリアリティ

アース製薬は、事業およびステークホルダーに大きな影響を与えるサステナビリティ重要課題として、2021年に5つのマテリアリティを定めました。

■マテリアリティ特定プロセス

課題の抽出

サステナビリティ分野における国際的なフレームワークやガイドライン等を参考に、課題を抽出

重要度の評価

CSR/サステナビリティ推進委員会および部門長により、当社の方向性を踏まえ、事業における課題の重要度を評価し、マテリアリティ(案)を作成

マテリアリティの特定

経営層・社外取締役へのインタビューを経て、取締役会による審議の上、5つのマテリアリティを承認

■アースECO基準

目標	区分	基準概要
CO ₂ 削減への取り組みを	原料	内容物の濃縮化
	容器・包装	詰替え・付替え容器、多数個入り製品の開発
		植物由来及び非化石原料由来素材の使用 簡易包装化による樹脂使用量削減
限られた資源を大切に	原料	持続可能（循環型）な原料を使用
	容器・包装	リサイクル材料の使用 森林認証紙の使用
捨てるところにまで配慮を	使用	製品・機器のロングライフ化
	廃棄	排水への配慮 廃棄物分別の負担削減

■アース製薬のサステナビリティ重要課題（マテリアリティ）

マテリアリティ（重要課題）	説明	2030年目標	KPI	SDGs
気候変動への対応	世界的に最も深刻な環境問題である気候変動の緩和とそれへの適応は、中長期的に当社の事業拡大に影響を及ぼす可能性があります。また、気候変動による平均気温の上昇、降水パターンの変化をはじめとした異常気象の激甚化などが、当社事業のバリューチェーン全般に影響を与える可能性もあります。こうした気候変動への対応は、中長期的な企業価値に係わる経営課題であると認識しています。	●CO ₂ 排出量を削減します。	●CO ₂ 排出量削減： 2020年比で（Scope 1, 2） ・14%削減（2023年） ・28%削減（2026年） ・46%削減（2030年）	
		●電力の再生可能エネルギー化を進めます。	●再生可能エネルギー化： ・工場の再生可能エネルギー化【再生率60%】（2023年） ・研究所の再生可能エネルギー化【再生率90%】（2026年） ・オフィス*の再生可能エネルギー化【再生率95%】（2030年） *テナントオフィスを除く	
地球環境問題への配慮	持続可能な循環型社会形成の観点から、世界規模での環境汚染および資源不足が問題となっています。当社にとって、バリューチェーン全体に係わる環境問題に配慮することは、当社事業の持続可能性に直結する課題です。資源の有効活用と廃棄物削減に向けた当社の取り組みは、原料調達から製品設計・製造、使用、廃棄にいたる各段階での環境負荷低減による事業リスクの軽減のみならず、当社ブランドおよび企業価値の保全・向上に貢献するものであると認識しています。	●モノづくり（研究開発から生産）にかかわる水の使用効率を向上させます。	●水の使用効率の向上： 2020年比で ・3%向上（2023年） ・6%向上（2026年） ・10%向上（2030年）	
		●循環型社会を目指し、資源を有効に活用します。	●工場・研究所からの産業廃棄物等のゼロエミッション： ・処理委託先の状況調査・見直し（2023年） ・工場と研究所のゼロエミッション（2026年） ・工場と研究所のゼロエミッションの維持（2030年）	
		●アースECO基準を定め、環境に配慮した製品の拡大を推進します。	●アースECO基準概要： ⇒別表（アースECO基準）参照	
持続可能な調達の推進	「生命（いのち）と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」という経営理念に基づき、持続可能な調達を推進します。全てのお取引先様とのパートナーシップを構築し、公正・公平で倫理的な関係を保ちながら人権・安全衛生・環境に配慮した調達を推進することが、当社の企業価値創造に繋がるとともに社会全体の持続可能な発展に貢献すると認識しています。	●環境などに配慮した包装材料の調達を推進します。	●森林認証紙の使用率： ・使用比率を10%以上（2023年） ・使用比率を30%以上（2026年） ・使用比率を70%以上（2030年）	
安心で快適な暮らしに貢献する製品・サービスの提供	アース製薬のものづくりにとって、お客様目線に立った高品質で安心・安全な製品・サービスを提供し続けることが最も重要な社会的責任です。当社は、この社会的責任を確実に果たしていくことが、企業価値を保全・向上させるための絶対条件であり、当社の企業価値を形成する礎であると認識しています。	●お客様の満足と信頼を損ねる品質重大事故をゼロにするため、自社工場、製造委託先工場の定期品質監査実施率を向上させます。 ●関連法令を遵守し、違反につながる重大事故をゼロにするため、教育訓練年間計画の実施率を向上させます。	●定期品質監査実施率： 100%を維持（2023年、2026年、2030年） ●教育訓練の実施率： 100%を維持（2023年、2026年、2030年）	
多様な人財の活躍を支える職場の実現	アースバリュー「人がすべて」の価値観に基づき、多様な人財の活躍を支える職場の実現を目指します。従業員の健康・安全に配慮した職場環境を整備し、人権を尊重し多様性を確保した公正で適切な処遇により、従業員一人ひとりが成長できる働きがいのある職場を実現することが、当社の長期的な価値創造に繋がると認識しています。	●年次有給休暇の取得を促進します。 ●女性活躍推進のため、女性管理職相当に占める女性の割合を上昇させます。	●有給休暇取得率： 70%以上を維持（2023年、2026年、2030年） ●女性管理職比率： ・10%以上（2023年） ・18%以上（2026年） ・30%以上（2030年）	